

環 境

年 報

2026Vol.31

早稲田大学環境保全センター

WASEDA UNIVERSITY ENVIRONMENTAL SAFETY CENTER

「環境」 Vol. 31 目 次

巻頭言

国内外の情勢の中での本センターの取り組み	----- 1
環境保全センター所長 山崎 淳司	

センター利用者報告

2025年度 分析室 施設利用者の研究テーマ・利用内容	----- 2
-----------------------------	---------

2025 年度業務報告

年間活動日誌	----- 7
実験系廃棄物処理	----- 9
実験系廃棄物の処理施設視察	----- 10
実験系廃棄物の処理施設視察	----- 11
定期排水分析他教育・研究支援化学物質管理	----- 12
作業環境測定	----- 13
PRTR制度および東京都環境確保条例対象物質の集計結果	----- 14
	----- 15

対外活動報告

私立大学環境保全協議会活動報告	----- 16
-----------------	----------

組織

センターの組織	----- 19
---------	----------

国内外の情勢の中での本センターの取り組み

環境保全センター所長 山崎 淳司

2024年9月に環境保全センター所長に嘱任してから、間もなく2年目を迎えようとしております。本センターは1979年12月の設立以来、歴代の所長を務められた先生方や多くの職員の方々が実績を着実に積み上げてこられて今に至っております。本年報も本年でvol.31を数えますが、その礎の上に、さらなる発展の一助となるよう、教職員一丸となって活動に取り組んでおります。

本センターの活動の法制基盤である労働安全衛生法は、本年（2026年）4月1日の改正により、リスクアセスメント対象物質が合計約2300物質まで拡大されました。これは、わが国がGHS分類において危険性または有害性があると区分した化学物質のほぼ全てが対象となったことによるもので、表示・通知義務や自主管理の対象がさらに広がったことを意味します。本センターでは、学内で扱う化学薬品を一括管理する化学物質管理システム（CRIS）を随時アップデートしながら、この拡大に着実に対応するとともに、大学として実施している全キャンパスを対象とした定期的な安全衛生一斉点検に加え、当センターでも作業環境測定や排水分析などを継続的に実施し、教職員・学生が安全に研究・教育活動を行える環境の維持に努めております。また、新しく研究を開始した学生や研究員を対象とした安全講習会についても、法令改正や事故事例を踏まえて内容を毎年見直し、複数回の対面開催とオンデマンド講習を通じてより多くの受講機会を確保できるよう努めております。また、当センターに設置・管理している分析装置や実験器材を利用した研究支援も本センター業務の大きな柱であり、機器の共用利用を促進しながら、可能な限り研究活動を支える体制づくりに力を注いでおります。

文部科学省の先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）を通じて構築してきた支援体制についても、事業自体は昨年度に終了しましたが、今年度、先端研究基盤刷新事業（EPOCH）に採択されたことから、これまでに築き上げた成果を踏まえて、さらに充実させ、全学の研究活動に還元できるよう活用を進めてまいります。

一方で、本年度の特筆すべきは、国際情勢の影響が実務面にも及んでおり、大きな課題として顕在化しております。中東・イラン情勢の緊迫化に伴い、原材料の輸入や国際物流の混乱等を背景として、廃棄用ポリ容器、実験用手袋、ピペット用チップ、ポリ容器などの消耗品について、入荷が滞る、あるいは大幅な価格上昇が生じる事態となっております。これらはいずれも、日常の検査業務や実験室点検、排水分析等の分析業務、さらには教職員・学生への研究支援活動を支える物品であり、その安定的な調達に支障が生じることは、本センターの業務運営にとどまらず、学内の研究・教育活動全体にも少なからぬ影響を及ぼしかねない状況です。本センターとしても、複数の調達先の確保や発注時期の前倒し、在庫状況に応じた学内での融通など、現時点でできる限りの対応を進めておりますが、こうした対症的な工夫だけでは限界があることも事実です。根本的な解決には国際情勢の安定化と国の対応・対策が不可欠であり、一日も早い事態の収束を強く望むところです。

このような状況ではありますが、本センターの活動は遅滞も支障もなく行われており、基本使命である学内の環境保全とともに、すべての研究・教育活動が安全・安心かつ円滑に実施される体制づくりと維持に、今後も変わらず取り組んでまいり所存です。学内の皆様には、対応の面でご不便やご心配をおかけする場面もあるかと存じますが、何卒ご理解と引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

センター利用者報告

2025 年度 分析室 施設利用者の研究テーマ・利用内容

基幹理工学部

■機械科学・航空学科

【川田 研究室】

- ・CNT 糸の高強度化（修士課程）
- ・溶液紡糸法による CNT 糸の高強度化手法について（学士課程）
- ・溶液紡糸法によるカーボンナノチューブ糸の創成（学士課程）

【鈴木 研究室】

- ・Ni 基超合金からの不純物 Pb, Sb 除去メカニズムの解明と除去反応速度式の構築（学士課程）
- ・ゾーレ係数測定における測定精度向上（学士課程）
- ・液体金属の拡散係数測定（学士課程、教職員等）

■材料科学専攻

【国吉 研究室】

- ・シリコン廃棄物を用いた二酸化炭素の還元反応の実験的解析（学士課程）
- ・リン脂質の石灰化反応機構の実験的解析（学士課程）

創造理工学部

■総合機械工学科

【中垣 研究室】

- ・海水を用いた有価物併産カーボンリサイクル技術実証と応用製品の研究開発（修士課程）
- ・湿式岩石風化促進に係る研究開発（修士課程）
- ・岩石風化促進（修士課程）
- ・化学吸収液における加速劣化試験法の確立（修士課程）
- ・気固接触型 ERW における水噴霧・蒸発による CO₂ 鉱物化速度向上策の検討（学士課程）
- ・海水を用いたカーボンリサイクル技術における炭酸マグネシウム使用用途についての検討（学士課程）

■社会環境工学科

【秋山 研究室】

- ・海水由来の材料を用いたカーボンネガティブコンクリートの開発（修士課程、学士課程）

【小峯 研究室】

- ・Ca 成分を含んだ物質の CO₂ 固定化反応における定量・定性評価方法の提案（博士課程）
- ・ベントナイトの膨潤特性に及ぼすコンクリート溶脱物や PEM 甲殻金属腐食物の影響（博士課程）
- ・可視・赤外分光測定による地盤材料の成分および状態量の測定手法の開発（博士課程）
- ・メタカオリンベースジオポリマーの乾燥収縮特性に関する考察（修士課程）
- ・温度勾配環境における締固めた不飽和ベントナイト中の蒸気・水分移動測定（修士課程）
- ・遊離 Ca を含むばいじんの固液系 CO₂ 固定化試験後の高純度 CaCO₃ の回収（修士課程）
- ・ラテライト等による塩化物イオンのろか・吸着性能評価、塩水化抑制対策（学士課程）
- ・飛灰の CO₂ 固定に関する速度論モデルの構築と CO₂ 固定化用プラントの試設計（学士課程）
- ・電気化学処理を用いたベントナイトの物理化学特性の改良（学士課程）
- ・層状粘土鉱物における CO₂ の回収・利用の高度化研究（学士課程）
- ・ゼオライトや二酸化珪素等の塩化物イオン挙動と塩水化抑制対策への応用（学士課程）
- ・Heavy metal leaching suppression mechanism, especially hexavalent chromium, of recycled concrete aggregate (RCA)（学士課程）
- ・鉄鋼スラグと木質繊維を混合した地盤材料の環境影響評価（教職員等）

【榊原 研究室】

- ・Analyse the optimal magnetite dosage for bio-Fenton reactor（博士課程）
- ・水生植物と珪藻の成長に関する調査研究（学士課程）
- ・微量汚染物質の前処理・分析測定と促進 MBR の浄化性能の評価（学士課程）

■環境資源工学科

【大河内 研究室】

- ・ナトリウムイオン電池正極材料の構造制御（博士課程）
- ・マイクロカプセル香害の実態解明と呼吸器系保護具試験法に関する検討（修士課程）

- ・カンボジアにおける大気汚染の実態解明と健康及びアンコール遺跡群への影響評価（修士課程）
- ・室内環境中マイクロプラスチックの実態解明と柔軟剤マイクロカプセル分析法の検討（修士課程）
- ・丹沢山塊の渓流水化学特性と大気沈着影響の評価（修士課程）
- ・大気エアロゾル中マイクロプラスチックの実態解明と健康影響評価（修士課程）
- ・カンボジアの有機大気物質の実態解明と健康および環境影響評価（修士課程）
- ・化学・安定同位体分析を用いた豪雨の実態と生成機構の解明（学士課程）
- ・土壌中微小マイクロ/ナノプラスチックの蓄積と森林生態系への影響評価（学士課程）
- ・富士山で探る越境大気汚染と雲化学：ガス-エアロゾル-雲相互作用の解明（学士課程）
- ・大気浄化能評価（学士課程）
- ・ドローンと最先端熱分解 GCMS で切り拓く大気中マイクロ/ナノプラスチック研究（学士課程）
- ・大気中マイクロプラスチックの陸域発生源とプラスチックの微細化機構に迫る（学士課程）
- ・河川-海洋中 100 μm 未満マイクロ/ナノプラスチックの実態把握と微細化機構（学士課程）
- ・セメントスラリー分離液を用いた石油増進回収に係る実験的研究（教職員等）
- ・ガラス化されたプルシアンブルー類似体の電極特性評価（教職員等）

【川邊 研究室】

- ・廃棄物を活用した酸性廃水の中和処理および有害重金属除去に関する研究（修士課程）
- ・地下環境下における重金属の動態に及ぼす嫌気性微生物の影響（修士課程）
- ・リサイクル資材を活用した酸性坑廃水の中和処理及び重金属除去に関する研究（修士課程）
- ・微細マイクロプラスチックの土壌への吸着に関する研究（修士課程）
- ・天然岩石や廃棄物を用いた酸性廃水の中和処理ならびに二酸化炭素吸収および固定化に関する研究（修士課程）
- ・土壌中の重金属類の移動挙動に及ぼす好気性微生物の影響について（修士課程）
- ・酸性河川水の自然浄化能（学士課程）
- ・廃棄物を用いた有害重金属除去（学士課程）
- ・マイクロプラスチックへの重金属の吸着（未定）（学士課程）
- ・廃棄物を用いた酸性鉱山排水の中和および CO₂ の固定化（学士課程）

【笹木 研究室】

- ・鉄鋼スラグ主成分を複合化した光触媒複合体の合成およびその抗生物質の分解への応用（修士課程）
- ・Fe イオンの局在性が TiO₂ とモンモリロナイトの複合体の光触媒性能に与える影響（学士課程）
- ・鉄スクラップダストからの Zn に選択的なバイオリーチング（学士課程）
- ・炭素質金鉱石からの金のチオ尿素抽出（学士課程）
- ・ウズベキスタンにおける銅浮選尾鉱との光触媒複合体による水素生成活性の増強メカニズム（学士課程）

【所 研究室】

- ・Study of removing polyfluoroalkyl substances (PFAS) under fluorine presence by in-situ Zn-based LDH formation: Insights into interactions mechanism at molecular level（博士課程）
- ・Treatment and Recycling of Industrial Sewage Sludge Ash（博士課程）
- ・電気パルス法を用いた CFRP 積層板および CFRP-鋼板積層体からの CF 分離（博士課程）
- ・電気炉系スラグに含まれる Cr 化合物の回収に向けた処理プロセスの検討（博士課程）
- ・坑廃水の炭酸化処理による亜鉛・マンガンの分離回収法の検討（修士課程）
- ・直接電気パルス法によるリン酸鉄リチウムイオン電池正極材の分離（修士課程）
- ・木質ペレットの解砕特性把握（修士課程）
- ・Fe/As/Zn 系の坑廃水の PAdeCS を用いたパッシブトリートメント技術のモデル構築（学士課程）
- ・複数の金属合金の分離に関する検討（教職員等）
- ・ペロブスカイト太陽電池のリサイクル技術開発 化学的分離を主軸としたリサイクルプロセス検討（教職員等）

【山口 研究室】

- ・Fe 含有 PGMs 二次原料からの PGMs 濃縮プロセスの開発（修士課程）
- ・真空処理による LIB 正極材の剥離（修士課程）
- ・貴金属の溶銅とスラグ間の分配実験（修士課程）
- ・Nd₂O₃-Al₂O₃-CaO-SiO₂ 系スラグを用いた EV モータからのレアアース回収（修士課程）
- ・Na₂O フラックスを用いた酸化精製による銅からのニッケル、錫、鉄の除去（修士課程）
- ・スラグと溶鉄間の特定金属の分配（修士課程）
- ・Nd₂O₃-Al₂O₃-SiO₂-Na₂B₄O₇ 系状態図に基づいた EV モータからのレアアースの分離・回収（修士課程）
- ・低沸点金属を用いた Fe-Tb 合金からの Tb の液体金属抽出（修士課程）
- ・廃太陽光パネルのシリコンを用いたマグネシウム製錬（学士課程）
- ・銅のマット化に関する研究（学士課程）
- ・Ta₂O₅ 系含有スラグと溶鉄間の白金とルテニウムの分配（学士課程）
- ・廃シリコン表面における二酸化炭素の還元反応の実験的解析（学士課程）
- ・B フリーフラックスを用いた EV モータからのレアアース回収（学士課程）

- ・太陽光パネル Si の Al-Si 合金への応用および太陽光パネル Si の一方向凝固による高純度 Si の製造（学士課程）
- ・Ag-Pt 合金の組織と酸浸出挙動（学士課程）
- ・銅製錬技術に関する研究（教職員等）
- ・金属の製錬・リサイクルプロセスに関する研究（教職員等）

先進理工学部

■物理・応用物理学科

【勝藤 研究室】

- ・スピネル型 $\text{Co}_{1-x}\text{Fe}_x\text{V}_2\text{O}_4$ の軌道-スピン-歪結合（修士課程）

■化学・生命化学科

【中尾 研究室】

- ・ヤマトシジミ殻皮剥離現象の原因解明に向けたケミカルバイオロジー研究（修士課程）
- ・コーヒー豆の成分組成に関する研究（修士課程）
- ・海洋天然物や食品に含まれる生理活性物質の探索、作用機序の解明（学士課程）

【古川 研究室】

- ・ CO_2 光還元に関する研究（修士課程）
- ・Carbon dioxide capture and utilization (CCU)（学士課程 4 名）

■応用化学科

【梅野 研究室】

- ・メチルトランスフェラーゼの基質特異性改変（修士課程）
- ・基質・反応特異性の発散を指向した非ヘム鉄依存性酸化酵素の進化工学（修士課程）
- ・新規 DMAPP/IPP ビススクリーニング法を用いた 4-ヒドロキシ-3-メチル-2-ブテニルニリン酸レダクターゼ IspH の生産物特異性の改変（修士課程）
- ・相互解毒効果を利用した IPK と IspS の交互共進化（学士課程）

【江口 研究室】

- ・品質保持を目的とした粘土フィルム of 青果物保護シートとしての利用（修士課程）
- ・サポナイトを用いた芳香族化合物臭素化反応の反応性制御の検証（学士課程）
- ・粘土膜による青果物の鮮度保持（学士課程）
- ・粘土を用いた吸着に関する研究（教職員等）

【小柳津 研究室】

- ・ポリビニルアントラキノン修飾電極を適用した CO_2 貯蔵デバイスの開拓（修士課程）
- ・高分子活物質を用いた有機レドックスフロー電池の高容量化（教職員等）

【木野 研究室】

- ・カルボン酸レダクターゼを利用した長鎖脂肪酸アミド合成法の開発（修士課程）
- ・L-アミノ酸リガーゼを用いたペプチド合成（修士課程）
- ・L-アミノ酸リガーゼを用いたヘテロトリペプチドの選択的・効率的合成法の開発（修士課程）
- ・NRPS を利用した Pro-Hyp 合成（修士課程）

【桐村 研究室】

- ・寒天分解酵素の遺伝子工学による機能改変とネオアガロビオース効率的生産への応用（博士課程）

【小堀 研究室】

- ・LNT2 の膜濃縮晶析（修士課程）

【下嶋 研究室】

- ・層状ケイ酸塩層表面への金属修飾による配位不飽和金属サイトの創出（博士課程）
- ・ナノ多孔質金属酸化物を鋳型としたメソポーラスゼオライトの合成（修士課程）
- ・ナノ多孔質圧電触媒の合成と圧電触媒性能の評価（修士課程）
- ・熱・電気伝導率制御に向けたナノ多孔質熱電変換材料の結晶成長制御（修士課程）
- ・かご型シロキサンで被覆された酸化チタンエアロゲルの合成（修士課程）
- ・チタンオキシソクラスターとかご型シロキサンの架橋によるナノ多孔質触媒の合成（修士課程）
- ・ロータリーキルン炉における酸化銅 (I) 系スラグの酸化（修士課程）
- ・ヘテロ界面を有する金属酸化物ナノ多孔体の作製と熱電変換材料への応用（学士課程）
- ・可溶性ソーダライトケージの合成（学士課程）
- ・結晶性シリカナノシートを用いた自己修復層状シロキサン材料の作製（学士課程）
- ・ナノ多孔質石英の細孔構造制御と圧電触媒性能調査（学士課程）

【須賀 研究室】

- ・ジアミン含有ポリマーの CO_2 吸脱着挙動の追跡（修士課程）

- ・スチレンスルホン酸含有ブロックコポリマーの精密合成と有機色素との相互作用による色素内包（修士課程）
- ・ポリウレタンのリサイクル（修士課程）
- ・CO₂ 吸脱着剤の作成（学士課程）
- ・DA 反応による可逆的な高分子架橋について（学士課程）

【菅原 研究室】

- ・高エントロピー合金ナノ粒子を担持した多孔質炭素触媒（修士課程）
- ・CaWN₃ の高圧合成（修士課程）
- ・Synthesis of inorganic nanoparticles modified with octahedral molybdenum cluster and Inactivation of microorganisms（修士課程）
- ・ピレン誘導体を用いた二層ナノシートによる蛍光分析（修士課程）
- ・Design of high dispersible and enantioselective catalyst for epoxidation of alkenes（修士課程）
- ・SERS 基板としての利用を目指した、層間に金属ナノ粒子を有する二層構造ニオブ酸ナノシートの作製と性能評価（修士課程）
- ・八面体モリブデンクラスター錯体で装飾された HT0 ナノシートの合成（修士課程）
- ・ヘニサニオブ酸カリウムと鉄フタロシアニンを用いた二層ナノシートの酸化触媒の合成（学士課程）
- ・ナンキョクオキアミのバイオミネラリゼーション（学士課程）
- ・Fabrication of nanocomposite films by mist deposition method and investigation of their surface conditions（学士課程）

【関根 研究室】

- ・かご型シロキサンを用いた合金制御の可能な多官能性触媒担体の合成（博士課程）
- ・CO 不均化触媒プロセスを用いた二酸化炭素の固体炭素化（修士課程）
- ・木質系バイオマスからの LP ガス製造（修士課程）
- ・Pt 担持耐水性ルイス酸・塩基触媒を用いたセルロースから C₃・C₄ 炭化水素への変換（修士課程、学士課程）
- ・シロキサンを用いた多孔質材料の合成と金属ナノ粒子の包接（学士課程）
- ・Exsolution catalyst by modified Pechini method（教職員等）
- ・バイオマスからエネルギー資源への変換（教職員等）
- ・ケミカルルーピング型エタン酸化的脱水素による低環境負荷なエチレン製造のための酸素キャリア材の開発 “Pt-In₂O₃-TiO₂ のシナジーによる CO₂ アシスト型エタン酸化的脱水素の検証”（教職員等）
- ・電場印加反応場を利用した逆水性ガスシフト反応（教職員等）

【野田 研究室】

- ・複数種のカーボンナノチューブの流動層合成と三次元集電体としてのリチウムイオン電池への応用（修士課程）
- ・リチウムイオン電池の直接リサイクル法の開発（修士課程 2 名）
- ・各種産業副産物の炭酸化速度評価およびメカニズム検討（修士課程）
- ・リチウムイオン電池正極の簡易リサイクルプロセスの開発（修士課程）
- ・CO₂ 吸収型セメント混和材の炭酸化反応への各種粉体の混合効果（修士課程）
- ・カーボンナノチューブの低損傷乾式精製法の開発およびメカニズム解明（修士課程）
- ・流動層合成法によるカーボンナノチューブ合成（学士課程）
- ・使用済み Gr-LFP 全電池の省資源・省工程での再生（学士課程）
- ・使用済みリチウムイオン電池正極材の直接リサイクル法開発（学士課程）
- ・基質アシスト水電解による高効率水素製造（学士課程）
- ・長尺・高純度 CNT の高収率流動層合成（学士課程）

【花田 研究室】

- ・水素吸蔵合金と金属有機構造体の複合化による高容量化の検討（修士課程）

【福永 研究室】

- ・気相反応を利用した二酸化炭素電解還元（修士課程）
- ・新規プロトン伝導型セラミック燃料電池の研究開発（修士課程）
- ・固体酸化物形燃料電池を用いたシクロヘキサノールの脱水素反応の検討（修士課程）
- ・二酸化炭素電解還元用の複合電極の作製とその特性（修士課程）
- ・硝酸塩電気還元触媒の開発（学士課程）
- ・高電流密度での銅電析法により作製したガス拡散電極の CO₂ 電解還元特性（学士課程）
- ・燃料電池（学士課程）
- ・電解還元によるミクロ的電極構造解析（学士課程）

【松方 研究室】

- ・MOR 合成におけるアルカリ金属の変更による Al 配位位置と吸着性能への影響の検討（学士課程）
- ・低温プロピレン吸着材料としての Ag/MOR の高温水蒸気耐久性の検討（教職員等）

【門間 研究室】

- ・リチウム硫黄電池の解析（修士課程）

■生命医科学科

【朝日 研究室】

- ・低温冷却可能な一般型高精度万能旋光計の開発とその $\text{Bi}_2\text{Sr}_2\text{CaCu}_2\text{O}_{8+\delta}$ 単結晶への応用（修士課程）

【武岡 研究室】

- ・薬物送達キャリアへの応用のためのカチオン性アミノ酸型リポソームの安定性評価（修士課程）
- ・アミノ酸型アルギニン頭部カチオン性脂質 R3C14 の合成および構造確認（学士課程）

【武田 研究室】

- ・高分子・酵素複合化センサの構造解析（修士課程）
- ・バイオセンサ基材に用いる新たな高分子の作製（修士課程）

【細川 研究室】

- ・新規 PET 分解酵素の構造安定化変異体の解析（学士課程）
- ・環境および動植物由来微生物遺伝子データベースからの有用タンパク質のスクリーニングと機能・生産性等の改良（教職員等）

■電気・情報生命工学科

【大久保 研究室】

- ・Thermal stability of layered oxide（博士課程）

教育学部

■理学科生物学専修

【細 研究室】

- ・ヘビ類の臭腺分泌物に関する組成解析（博士課程）

■理学科地球科学専修

【飯塚 研究室】

- ・マイクロ蒸留における Ru 回収率の調査（教職員等）

学外

【東京農工大学大学院先進学際科学府 中田研究室】

- ・光触媒を用いた PVA 分解による CH_4 生成（修士課程）

2025 年度業務報告

年 間 活 動 日 誌

2025 年度は実験系廃棄物の適正管理に重点的に取り組んだ。特に、環境保全センターが設置されている西早稲田キャンパス以外のキャンパスにおいては、必ずしも知識・経験を有するスタッフが配置されているとは限らないため、改めて各キャンパスを訪問し現状を把握すると同時に、各キャンパス担当者との密な連携を通して適正な管理や改善に取り組んだ。また、昨年度に引き続き、労働安全衛生規則改正に対応した規約改正を受け、化学物質リスクアセスメントを実施し、それらの結果を踏まえて適切な化学物質の取り扱い方法等を使用者に展開した。化学物質リスクアセスメントの対象物質は年々追加されている現状を鑑み、使用者への安全教育を今後も強化していく。

また、本学の化学物質管理体制・運用や課題について、学外より依頼を受けて講演を行った。本学の取り組みを紹介するとともに、他大学・他機関と意見交換も行った。今後も法令改正等の情報収集を行い、それら改正を踏まえた本学における化学物質のより適正な使用に向けた取り組みを進めていく。

4 月

	定期排水分析
	作業環境測定
8 日	2025 年度 化学物質取扱いに関する環境保全・安全説明会
15 日	西早稲田キャンパス安全衛生委員会
16 日	TWIns 化学物質安全講習会（CRIS 操作説明会）
21 日	TWIns 安全衛生委員会
23 日	教育学部理学科 1 年生対象安全講習会

5 月

	定期排水分析
	作業環境測定
13 日	西早稲田キャンパス安全衛生委員会
14 日	第 1 回環境保全センター運営委員会
26 日	TWIns 安全衛生委員会
29 日	西早稲田キャンパス安全担当者会

6 月

	定期排水分析
	作業環境測定
10 日	西早稲田キャンパス安全衛生委員会
10 日	安全衛生管理委員会
23 日	TWIns 安全衛生委員会
24 日	早稲田キャンパス安全衛生委員会

7 月

	定期排水分析
	作業環境測定
	安全衛生一斉点検（～8 月）
	薬品在庫照合・化学物質リスクアセスメント（～9 月）
14 日	TWIns 安全衛生委員会
22 日	西早稲田キャンパス安全衛生委員会
30 日	化学物質リスクアセスメント演習

8 月

20 日	エネルギー管理委員会
22 日	安全な研究活動のための化学物質リスクアセスメント演習
28 日	私立大学環境保全協議会 第 38 回夏期研修研究会（同志社大学）（～29 日）

9 月

	定期排水分析
	作業環境測定
3 日	京都大学 共用機器見学・意見交換
5 日	第 18 回化学物質管理担当者連絡会 講演

17 日 西早稲田キャンパス安全担当者会
 22 日 西早稲田キャンパス安全衛生委員会
 25 日 年報「環境」第30号刊行
 29 日 TWIns 安全衛生委員会

10月

定期排水分析
 作業環境測定
 7 日 第2回環境保全センター運営委員会
 9 日 戦略方針委員会 視察
 14 日 西早稲田キャンパス安全衛生委員会
 17 日 文部科学省 視察
 22 日 安全衛生講習会（所沢キャンパス）
 27 日 TWIns 安全衛生委員会

11月

定期排水分析
 作業環境測定
 11 日 西早稲田キャンパス安全衛生委員会
 17 日 文部科学省 競争的研究費調整室 共用機器見学・意見交換
 17 日 TWIns 安全衛生委員会
 21 日 東京都環境局 特定施設査察
 25 日 早稲田大学高等学院 施設見学
 28 日 早稲田大学高等学院 施設見学

12月

定期排水分析
 作業環境測定
 16 日 早稲田キャンパス安全衛生委員会
 16 日 西早稲田キャンパス安全衛生委員会
 18 日 J&T 環境株式会社 東京臨海エコクリーン 処理場視察
 22 日 TWIns 安全衛生委員会



化学物質取扱いに関する環境保全・安全講習会

1月

定期排水分析
 作業環境測定
 13 日 西早稲田キャンパス安全衛生委員会
 21 日 文部科学省 高等教育局私学部私学助成課 施設見学
 26 日 TWIns 安全衛生委員会
 28 日 化学物質管理セミナー講演（亀戸労働基準監督署）



マスクフィットテスト

2月

16 日 西早稲田キャンパス安全衛生委員会

3月

定期排水分析
 作業環境測定
 2 日 第3回環境保全センター運営委員会
 2 日 化学物質・実験系廃棄物 管理担当者説明会
 4 日 西早稲田キャンパス安全担当者会
 10 日 安全衛生管理委員会
 12 日 私立大学環境保全協議会 第42回総会・研修研究会（日本工業大学）（～13日）
 16 日 2026年度 化学物質取扱いに関する環境保全・安全説明会
 16 日 環境保全センター利用の手引き 発行
 16 日 TWIns 安全衛生委員会
 17 日 西早稲田キャンパス安全衛生委員会
 23 日 マスクフィットテスト
 24 日 マスクフィットテスト

2025 年度業務報告

実験系廃棄物処理

2025 年度の実験系廃液・廃棄物発生量（搬入量）は、前年度とほぼ同量（約 5,000 L 増）であった。

1. 実験廃液・廃棄物搬入量（リットル）

（ ）内は 24 年度

			西早稲田 キャンパス	先端生命 医科学センター	研究開発 センター	材料技術 研究所	早稲田 キャンパス	所沢 キャンパス	その他 ^{注)}	合計
無 機 系	廃液	搬入量	12,060 (12,800)	220 (120)	9150 (12,570)	580 (820)	460 (360)	21 (0)	2,610 (2,120)	25,101 (28,790)
		割合(%)	48.0%	0.9%	36.5%	2.3%	1.8%	0.1%	10.4%	100.0%
	固体 廃棄物	搬入量	21,740 (20,620)	2,760 (3,000)	4,880 (4,420)	1,000 (740)	420 (260)	480 (620)	680 (360)	31,960 (30,020)
		割合(%)	68.0%	8.6%	15.3%	3.1%	1.3%	1.5%	2.1%	100.0%
有 機 系	廃液	搬入量	54,595 (48,445)	8,130 (8,760)	13,900 (15,930)	3,260 (2,820)	1,260 (1,310)	270 (100)	2,290 (2,970)	83,705 (80,335)
		割合(%)	65.2%	9.7%	16.6%	3.9%	1.5%	0.3%	2.7%	100.0%
	固体 廃棄物	搬入量	134,290 (134,950)	102,130 (95,030)	62,050 (58,920)	11,640 (10,990)	2,810 (2,620)	15,860 (15,280)	8,120 (7,200)	336,900 (324,990)
		割合(%)	39.9%	30.3%	18.4%	3.5%	0.8%	4.7%	2.4%	100.0%
感 染 性	廃液	搬入量	296 (263)	1,206 (1,399)	18 (12)	0 (0)	0 (10)	156 (134)	43 (91)	1,719 (1,909)
		割合(%)	17.2%	70.2%	1.0%	0.0%	0.0%	9.1%	2.5%	100.0%
	固体 廃棄物	搬入量	30,590 (38,307)	118,022 (118,541)	2,341 (1,436)	6 (15)	240 (203)	28,645 (28,864)	8,461 (9,667)	188,305 (197,033)
		割合(%)	16.2%	62.7%	1.2%	0.0%	0.1%	15.2%	4.5%	100.0%

注) その他は、戸山キャンパス、北九州キャンパス、高等学院、本庄高等学院、本庄キャンパス、理工学研究所、教育研究外活動（部活・サークル・ユニラブ）、および環境保全センター（不明物等の解体処理後の廃棄物を含む）である。

2. 実験廃液・固体廃棄物処理量（リットル）※

2026 年 3 月 31 日現在

		2024 年度 繰越量	2025 年度 搬入量	2025 年度 委託処理量	廃棄物残量 次年度繰越
無 機 系	廃液	1,140	25,101	25,121	1,120
	固体廃棄物	3,680	31,960	33,120	2,520
有 機 系	廃液	7,490	83,705	80,400	10,795
	固体廃棄物	6,290	336,900	336,960	6,230
感 染 性	廃液	40	1,719	1,729	30
	固体廃棄物	2,870	188,305	189,917	1,258

※繰越量、搬入量および委託処理量は容器容量にて算出した。

3. 廃薬品等処理量

（ ）内は 24 年度

無機試薬	有機試薬	取扱注意試薬	内容不明物	薬品瓶等 ガラス屑	金属屑	廃土	廃バッテリー	高濃度廃液
92.5kg 383本	130.8kg 933本	9.1kg 5本	0kg 0本	7,000L ドラム缶35本	703.7kg	フレコン7袋	423.2kg	0kg 0本
(96.8kg 326本)	(317.9kg 1169本)	(35.5kg 2本)	(968.4kg 153本)	(9,200L ドラム缶46本)	(376.4kg)	(フレコン9袋)	(971.2kg)	(20kg 4本)

実験系廃棄物の処理施設視察(J&T環境株式会社)

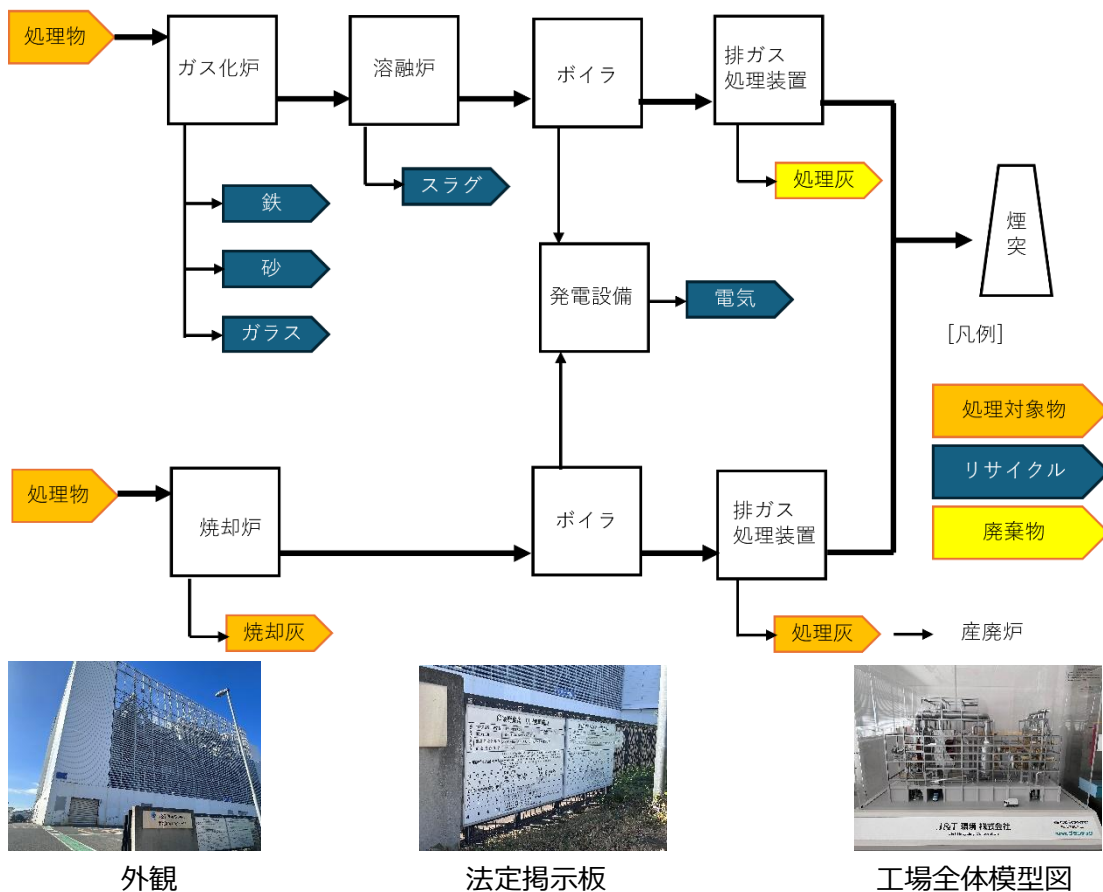
早稲田大学では実験系廃棄物を 28 の収集区分に分別回収し、区分に応じて適切な業者に廃棄物処理を委託しています。委託先である廃棄物処理業者に対して、環境保全センターでは法令に従い定期的に処理施設・処理フローを現地視察し、委託した廃棄物が適切に処理されていることを確認しています。2025 年度は、感染性廃棄物（III, IV, V 区分等）（以下、感染廃）、および廃プラスチック類（P 区分）（以下、廃プラ）の処理委託先である J&T 環境株式会社の処理施設の一つである東京臨海エコクリーン（東京都江東区）を訪問しました。（2025 年 12 月 18 日実施）

処理施設・処理フロー紹介

本学で発生する感染廃は東京臨海エコクリーンで中間処理がなされ、処理後の残渣の多くはマテリアルリサイクルにより再利用されています（下図）。これらのマテリアルリサイクルにより処理灰として排出される量を 2.5% に圧縮し、廃棄物量を削減しています。処理委託した廃棄物は、高熱の砂を滞留させたガス化炉で不完全燃焼させながら金属を取り出し・再利用し、続く溶融炉によりスラグとして回収されます。ガス化炉、溶融炉による排熱を活用して蒸気タービンによる発電を行い、多くの電力が売却されています（サーマルリサイクル）。これらの取り組みによりトータルコストを抑えて運用しています。感染廃は低温保管により一定時間内（多くは即日）に処理することとしています。医療系専用プラントを設け、バーチカル炉にて 6 時間かけて完全燃焼させる運用を行っています。

同社からは、本学の廃棄物については大きな問題なく分別・内容申告がされていると伺いました。東京都環境局に隣接していることもあってか、環境中に焼却灰を排出しないよう、排気を再加熱して臭気を削減する等排ガス処理に様々な取り組みを行っていました。整備の行き届いた高性能設備と高い技術力によって、本学の廃棄物を適切に処理されていました。

産業廃棄物処理設備



2025 年度業務報告

定 期 排 水 分 析 他

1. 学内排水管理業務

下水道法における、特定事業場からの下水の排除に係る水質の基準について、超過は見られなかった。

【学内採水箇所】

西早稲田キャンパス:4 早稲田キャンパス(教育学部):2 材料技術研究所:5 喜久井町キャンパス(理工研):1
研究開発センター:4 先端生命医科学センター:1

【実施回数および分析項目数】

8・2月を除く毎月1回26項目（箇所により年2回31項目）の分析を実施

【結果】

いずれも基準値の超過なし

＜東京都下水道局による立入水質調査結果＞

下記の通り、立入水質検査が実施された。

採水年月日	検査箇所	検査結果
2025/10/7	各務記念材料技術研究所	基準値内

2025 年度業務報告

教 育 ・ 研 究 支 援

環境保全センターでは、学内の研究活動を支援するために、分析室（設備・機器）を開放している。分析室の利用状況、運営状況は、以下の通りである。2025年度も引き続き、オンデマンドコンテンツの活用など、効率化を図りながら、従来の体制を維持し、実施した。また、老朽化した機器については、補助金、学内予算等により更新を進めている。

- (1) 施設利用申込書提出者の推移
 - 2023 年度：190 人（前年度比 23% 増↑）
 - 2024 年度：189 人（前年度比 1% 減↓）
 - 2025 年度：189 人（前年度比 ±0%）
- (2) 機器器具更新
 - ・GC-TCD（Agilent 7890B、検出器交換（ECD 撤去/TCD 増設））
- (3) 学外依頼分析等の受託
 - ・学外の依頼分析(大学 1 件)
 - ・学外の機器利用(大学 のべ 3 件、共同研究は含まない)

分析機器・設備利用状況

分析装置名	利用時間(時)	分析装置名	利用時間 (時)
ICP発光分光分析装置	369 (384)	超高速液体クロマトグラフQTof	836 (854)
ICP質量分析装置	355 (355)	液体クロマトグラフ	103 (190)
ガスクロマトグラフ質量分析計	1, 350 (1145)	TOC計	325 (213)
ガスクロマトグラフ(TCD)	109 (149)	分光光度計	9 (5)
イオンクロマトグラフ	1, 343 (1, 219)	ドライトチャンバー	321 (327)

() 内は前年度数

2025 年度 業務報告

化 学 物 質 管 理

1. 化学物質管理体制

本学では、学内で使用される全ての薬品および高圧ガスの出入りを各キャンパス薬品管理窓口にて、化学物質管理システム CRIS を利用し、効率的かつ安定した管理を行っている。なお、化学物質管理システム CRIS によるバーコード発行枚数（薬品登録件数）は、表-1 のとおりである。また、各キャンパス薬品管理窓口では、2009 年度から薬品や高圧ガスの納品確認（検収）を継続して行っており、化学物質管理システム CRIS の利用との二重の管理体制を敷いている。

西早稲田キャンパスの薬品管理窓口（ケミカルショップ）では、上記の業務に加えて、研究用ドライアイスや液体窒素の販売および液体窒素供給のための実習も行っている（表-2 参照）。

(1) 化学物質管理システム

表-1. バーコード発行枚数（化学薬品） (枚)

キャンパス名	2025 年度	2024 年度	2023 年度
A 早稲田キャンパス	290	169	256
B 戸山キャンパス	31	45	20
C 西早稲田キャンパス	12,588	11,697	11,994
D 所沢キャンパス	752	484	446
E 高等学院	112	109	128
F 本庄高等学院	4	34	20
G 喜久井町キャンパス	155	25	44
H 材料技術研究所	740	759	717
J 北九州キャンパス	345	392	360
L 先端生命医科学センター	2,893	2,810	2,787
Y 本庄キャンパス	23	66	70
Z 研究開発センター	4,353	4,326	4,304
計	22,286	20,916	21,146

2. ドライアイス及び液体窒素利用状況

ドライアイスおよび液体窒素の供給量は、表-2 に示すとおりである。

表-2. 供給量内訳 (kg)

品名	2025 年度	2024 年度
ドライアイス	1,540	1,546
液体窒素	13,560	13,207

3. 免税アルコール使用に関する業務報告

今年度も、従来どおり 4 ヶ月ごとに区切り(計 3 回)、使用明細書、研究記録簿、回収記録、洗浄記録の報告を受けて、収支量のデータ記録から使用報告まで円滑な運用を行った。年度の使用量を表-3 に示す。

表-3. 使用量内訳 (L)

2025 年度	2024 年度
239.62	286.06

2025 年度業務報告

作 業 環 境 測 定

1. 2025 年度総括

所定の化学物質等（有機溶剤・特定化学物質・金属）を使用する作業場所に対し、作業環境測定を実施することが労働安全衛生法で定められている。早稲田大学では、各研究室・実験室の薬品取扱い状況に関するヒアリング及び化学物質管理システム CRIS による薬品購入量の調査によって、測定対象を精査している。

測定結果を振り返ると、第 2 管理区分となった箇所は 4 箇所、第 3 管理区分となった箇所は 2 箇所であった。第 2・第 3 管理区分となった箇所については、都度、当該研究室の指導教員等に対して測定結果の説明および改善提案を行った。

参考:基準超過件数

年度	件数
2021	7
2022	7
2023	3
2024	3
2025	6

2. 作業環境測定結果

2025 年度の延べ測定件数を以下に示す。

期間 (25 年 4 月～26 年 3 月)	西早稲田 キャンパス	材料技術 研究所	研究開発 センター	先端生命 医科学センター	早稲田キャンパス 戸山キャンパス
測定件数(延べ97件)	78	4	8	3	4

※再測定実施件数を含む。

上記測定箇所のうち、第 2 管理区分・第 3 管理区分となった箇所について、詳細を以下に示す。

キャンパス	研究室名	測定月	基準超過項目	測定結果 (管理区分)	特記事項	その後の経過
西早稲田	A 実験室	5 月	クロロホルム	3	換気設備、使用溶媒変更、実験操作手順による改善を提案	2026 年 4 月 (作業再開時) 第 1 管理区分
西早稲田	B 研究室	6 月	ヘキサン	2	換気強化を提案	12 月 第 1 管理区分
西早稲田	C 研究室	9 月	クロロホルム	3	実験設備の排気口の改善、換気強化を提案	11 月 第 1 管理区分
西早稲田	D 研究室	9 月	クロロホルム	2	実験設備の排気口の改善、換気強化を提案	11 月 第 1 管理区分
西早稲田	E 研究室	1 月	ベンゼン	2	換気強化を提案	2026 年 7 月 第 1 管理区分
研究開発 センター	F 研究室	3 月	ヘキサン	2	装置の廃液管理の徹底を提案	次回 (2026 年 9 月) 測定予定

3. 次年度について

今後も継続的に有機溶剤・特定化学物質・金属類の測定を実施し、第 2・第 3 管理区分となった箇所に対しては、改善提案を実施する。また、作業環境測定を通じて化学物質リスクアセスメント対象物質の基準値超過が見つかった場合は、合わせて説明・改善提案を実施する。今までの測定で得られた知見から設備的な改善が必要な際は、各学院等との連携を深め、組織的な対策の検討を進める。

[ご参考：評価結果の解釈]

第 1 管理区分：作業環境管理が適切であると判断される状態

第 2 管理区分：作業環境管理になお改善の余地があると判断される状態

第 3 管理区分：作業環境管理が不適切であると判断される状態

2025 年度業務報告

PRTR 制度および東京都環境確保条例対象物質の集計結果

2025 年度 1 年間における各キャンパス毎の「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（PRTR 制度）」（対象物質数：515 物質かつ使用量 1 トン以上）における報告対象物質、ならびに「東京都環境確保条例」における適正管理化学物質（対象物質数：59 物質かつ使用量 100kg 以上）の使用量、移動量（廃棄量）は以下のとおりとなった（有効数字 2 桁）。

< 西早稲田キャンパス >

	対象化学物質	2025 年度		2024 年度		備考
		使用量(kg)	移動量(kg) (廃棄量)	使用量(kg)	移動量(kg) (廃棄量)	
1	アセトン	9,900	5,500	8,400	5,500	
2	ヘキサン	6,000	3,900	4,900	4,000	PRTR 報告対象
3	メタノール	4,800	3,100	4,000	2,700	
4	ジクロロメタン	3,600	3,400	2,800	2,000	PRTR 報告対象
5	酢酸エチル	3,300	2,400	2,600	2,400	
6	クロロホルム	3,200	2,200	2,600	1,800	PRTR 報告対象
7	イソプロピルアルコール	370	180	460	190	
8	トルエン	220	150	330	310	
9	塩酸	170	49	150	36	
10	硫酸	110	74	150	150	

< 材料技術研究所 >

	対象化学物質	2025 年度		2024 年度		備考
		使用量(kg)	移動量(kg) (廃棄量)	使用量(kg)	移動量(kg) (廃棄量)	
1	アセトン	200	140	95	93	

< 研究開発センター >

	対象化学物質	2025 年度		2024 年度		備考
		使用量(kg)	移動量(kg) (廃棄量)	使用量(kg)	移動量(kg) (廃棄量)	
1	アセトン	2,400	1,300	2,300	1,100	
2	ヘキサン	2,100	780	2,600	700	PRTR 報告対象
3	酢酸エチル	2,100	620	2,000	580	
4	クロロホルム	2,100	1,800	2,500	1,300	PRTR 報告対象
5	メタノール	920	620	960	810	
6	ジクロロメタン	540	380	760	530	
7	イソプロピルアルコール	160	75	150	46	
8	硫酸	150	100	160	150	
9	塩酸	120	29	300	64	
10	硝酸	120	81	86	79	

< 先端生命医科学センター（早稲田大学分のみ） >

	対象化学物質	2025 年度		2024 年度		備考
		使用量(kg)	移動量(kg) (廃棄量)	使用量(kg)	移動量(kg) (廃棄量)	
1	ジクロロメタン	160	120	120	55	
2	メタノール	100	84	120	94	

対外活動報告

私立大学環境保全協議会活動報告

―「同志社創立 150 周年記念 第 38 回夏期研修研究会」―

日時 2025 年 8 月 28 日（木）、29 日（金）

会場 同志社大学 今出川校地（京都市上京区）

今回の夏期研修研究会は、2025 年に創立 150 年を迎えられた同志社大学を会場として、主に対面にて開催した。同志社大学 ビリー准教授による大学におけるラーニングガーデンの必要性や影響についてのご紹介や、同大学 赤尾教授による持続可能な視点からの地域資源の利活用についてご紹介があった。また、京都市環境政策局の川崎部長より地域脱炭素モデルの構築について、京都ならではの講演を実施するとともに、グループ討議も、多くの方にご参加頂き、活発な意見交換となった。キャンパス見学では、同志社の貴重な文化財をご紹介頂き、大変好評であった。



8 月 28 日(木)

1. 開会挨拶 私立大学環境保全協議会会長 菅原 義之
2. 開催校挨拶 同志社大学環境保全・実験実習支援センター所長 大江 洋平
3. 研修講演
「希望を耕す ラーニングガーデンと学生の自然観」
同志社大学社会学部教育文化学科准教授 ビリー・スティーブンソン
4. 研修講演
「持続可能な地域づくりの視点からの資源化技術」
同志社大学理工学部環境システム学科教授 赤尾 聡史
5. グループ討議
Ⅰ：教育と連携「地域と大学の連携・協働による地域のソーシャル・イノベーション」
(グループ内講演)
「大学と地域の連携・協働によるソーシャル・イノベーション」同志社大学政策学部／総合科学研究科教授 中島 恵理

Ⅱ：化学物質「新たな化学物質規制体系に向けた対応について」
Ⅱ-A：法改正概要（基礎的内容） Ⅱ-B：化学物質アセスメント実務について Ⅱ-C：化学物質管理体制
Ⅱ-D：化学物質のばく露軽減措置 Ⅱ-E：化学物質にかかる安全教育 Ⅱ-F：実験系廃棄物管理

Ⅲ：施設・設備「再生可能エネルギー100%キャンパス実現に向けた課題と解決策」
(情報提供)
「脱炭素アクションプランと現状について」芝浦工業大学大宮キャンパス管理部管理課 原 拓也
「慶應義塾のエネルギー見える化について」慶應義塾大学管財部施設担当主任 海老澤 隆
「SFC 太陽光発電設備設置について」慶應義塾大学湘南藤沢事務室管財担当 奈須 浩泰
「未来の都市ガス e-メタン」
東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社都市エネ営業本部公益営業部学校営業グループ 佐藤 昭彦
「電気メニューによるカーボンオフセット」
東京電力エナジーパートナー株式会社法人営業部都市第三営業グループ 山脇 龍太
6. 情報交換会

8月29日(金)

1. グループ討議

前日より引き続き討議を行った。

2. 講演

「京都ならではの地域脱炭素モデルの構築」

京都市環境政策局地球温暖化対策室脱炭素地域創出促進部

長 川崎 明浩

3. 開会統括 私立大学環境保全協議会副会長 松澤 秀則

4. キャンパス見学会

(登録有形文化財) アーモスト館・啓明館

(重要文化財) 有終館・クラーク記念館・ハリス理化学館・礼拝堂・彰栄館



—「第42回総会・研修研究会」—

日時 2026年3月12日(木)、13日(金)

会場 日本工業大学 埼玉キャンパス (埼玉県南埼玉郡宮代町)

第42回総会・研修研究会は、日本工業大学埼玉キャンパスを会場として、対面にて開催した。同大学の平栗教授より最新のスマート農業についてのご紹介や、佐藤教授と学生環境推進委員会メンバーより同大学の環境への取り組みを紹介いただいた。2日目には、埼玉県環境部環境政策課の豊田技師より埼玉県の環境政策についてご講演いただいた。また、グループ討議も、各グループでグループ内講演や情報共有が行われ、活発な意見交換が行われた。

キャンパス見学会では講演者の平栗教授によるスマート農業のご説明があり、工業技術博物館ではSL 機関車の有火運転が実施され、参加者からは貴重な機会となったなど感嘆の声も多く聞かれた。



3月12日(木)

《総会》

◆議事 2025年度活動・決算報告・会員状況等

2026年度役員および委員会委員、活動計画・予算、今後の開催校等

《研修研究会》

1. 開会挨拶 私立大学環境保全協議会会長 菅原 義之

2. 開催校挨拶 日本工業大学学長 竹内 貞雄

3. 特別講演

「自然環境と社会情勢が激変する時代の食と農 —工学との融合による新たな農業—」

日本工業大学基幹工学部電気情報工学科教授 平栗 健史

4. 研修講演

「日本工業大学の環境への取り組み—大学と学生と地域と—」

日本工業大学共通教育学群教授 佐藤 杉弥・学生環境推進委員会メンバー

5. グループ討議

I : 教育と連携「SDGs 実現のための地域と大学との協働と連携 —日本工業大学の事例—」

(グループ内講演)

「SDGs for Engineers(SfE)の活動」日本工業大学環境生命化学科教授 伴 雅人

Ⅱ：化学物質「昨今の化学物質規制体系に向けた対応について」

(グループ内講演)

「東京理科大学における薬学部移転対応について」東京理科大学管財部野田管財課環境安全管理室 西座 智佐子

Ⅱ-A：法改正概要（基礎的内容） Ⅱ-B：化学物質アセスメント実務について Ⅱ-C：化学物質管理体制

Ⅱ-D：化学物質のばく露軽減措置 Ⅱ-E：化学物質にかかる安全教育 Ⅱ-F：実験系廃棄物管理

Ⅲ：施設・設備「議論はキャンパスをどう変えたか？各大学における施設計画・環境改善の具体例とその効果」

(グループ内講演)

「学校等における省エネルギーの取組について」

文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課課長補佐 外崎 雅美

「室内空気質と計測センサ技術の重要性」シー・エイチ・シー・システム（株）代表取締役社長 渋谷 俊彦

(情報提供)

「日本工業大学の省エネ対策状況」日本工業大学総務部施設環境管理課課長 国松 俊彦

「LCセンター(図書館)の省エネ大賞『省エネルギーセンター会長賞』受賞について」

日本工業大学LCセンター主任 中村 久美子

「東海大学札幌キャンパスにおける ZEB Ready 取得への取り組みと既存改修における工事費低減策について」

東海大学学長室施設設備担当 住野 祐介

6. 情報交換会

3月13日(金)

1. グループ討議

前日より引き続き討議を行った。

2. 講演

「埼玉県の環境政策について」

埼玉県環境部環境政策課 企画調整・環境影響評価担当技師 豊田 りさ子

3. 講演統括 私立大学環境保全協議会副会長 末永 聖武

4. キャンパス見学会

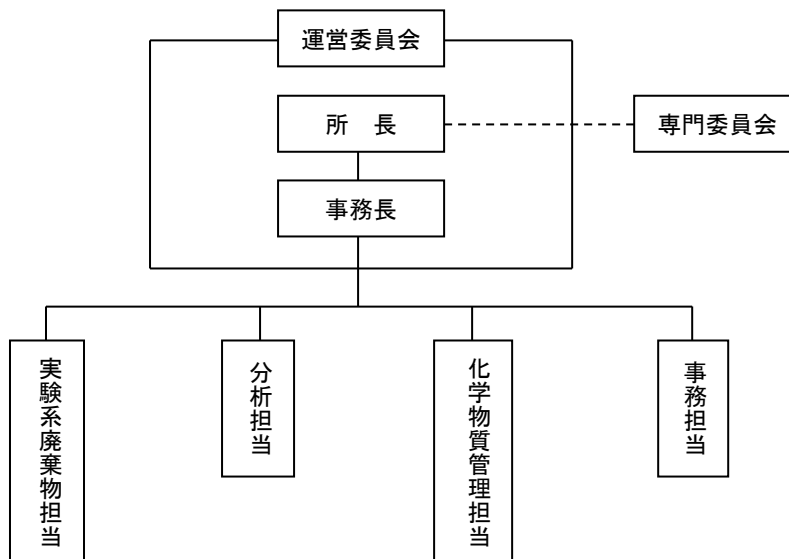
工業技術博物館、太陽光発電設備 PPA オンサイト、スマート農業など



組 織

センターの組織（2026 年 5 月現在）

環境保全センターの運営に関する重要事項は、「運営委員会」で審議され、決定しています。また、所長の諮問機関として「専門委員会」があり、各分野の専門知識を生かし、諮問事項に対して、適切な助言を行っています。



運営委員

副総長
理工学術院総合研究所長
各務記念材料技術研究所長
環境総合研究センター所長
理工学術院教授… 3 名
教育・総合科学学術院教授… 1 名
人間科学学術院教授… 1 名
高等学院教諭… 1 名
本庄高等学院教諭… 1 名
教務部長
研究推進部長
総務部長
理工学術院統合事務・技術センター長
理工学術院統合事務・技術センター技術部長
キャンパス企画部企画・建設課長
総務部環境安全担当課長
環境保全センター所長
環境保全センター事務長

専門委員

理工学術院教授… 8 名
教育・総合科学学術院教授… 1 名
環境保全センター事務長

スタッフ

所 長…山崎淳司
事務長…三浦克吉
専任職員… 6 名
常勤嘱託… 4 名
派遣社員… 1 名
株式会社ハチオウ（業務委託）
富士フイルム和光純薬株式会社（業務委託）
株式会社巴商会（業務委託）
私立大学環境保全協議会事務局… 1 名

発行日：2026年9月10日

発行所：早稲田大学環境保全センター

〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1

TEL. (03) 5286-3089

<http://www.waseda.jp/inst/esc/>